

研費・基盤研究 A

「天文学との連携にもとづく考古学・考古史学研究法の構築」(19H00544)

# 七夕に関するフィールド調査

研究成果報告書〈令和二年度版〉

令和三年一月

今野利秋

# 第一章 本年度の調査の概要

## 1. コロナ禍による調査目的（対象）の変更

七夕行事は、大規模なイベントとして広く知られているものから、地域ごとに行われている小規模なものまで、その数はおそらく限りがないであろう。初年度にいくつかを実際に訪ねたが、とても数年の研究調査期間ではその全容に迫ることはできないと感じた。

本年度は、昨年度の調査を踏まえて、「各地の七夕行事調査の継続」、「北海道独特の七夕行事であろうそくもらい」の実態調査を柱として行う予定であった。しかし、春先になってから国内でも猛威を振るい始めたコロナ禍により、各地の七夕行事やイベントが軒並み中止となり、調査対象そのものがなくなってしまうに至った。また、緊急事態宣言も出され、東京から他府県への移動の制限も行われてしまった。このような状況を鑑み、本年度の戦略を大きく立て直さざるを得なくなった。

### (1) 調査テーマを「七夕人形」に変更

七夕行事には様々な形態があるが、その中から、手元に書物や文献を中心として、先行する「七夕人形」についての調査を行い、まとめを行った。

### (2) 博物館での調査を中心

緊急事態宣言が解除されて七夕の季節が近づくと、各地の博物館は営業を再開するようになった。そこで、「七夕人形」を切り口として、関連する展示や行事が行われている博物館を訪ねて、書籍や文献調査の補足を行うこととした。

### (3) これまで訪問した七夕の整理とデータベースのひな形づくり

フィールドで新たな行事に出会えないのを好機ととらえ、これまでの10数年の間に訪ねた各地の七夕に関する50ほどの事例を分類・整理し、今後のデータベースにつながる、情報カードの試作を行った。改良を続けていくことで、今後の調査結果も反映して行ければと思っの雛型レベルでの報告となる。

## 2. 調査日程

調査は2020年7月から8月に三回に分けて行った。コロナ禍に配慮し、検温、消毒、マスク、密の回避等の感染予防策を行っての訪問である。

### (1) 7月4日、5日

山梨県南アルプス市・甲府市を調査した。

7月4日

- ・南アルプス市野牛島 2727：ふるさと文化伝承館
- ・南アルプス市西南湖 4302：安藤家住宅

7月5日

- ・甲府市北口2丁目8番1号：山梨県立図書館

**(2) 7月11日、12日**

長野県塩尻市・松本市を調査した。

7月11日

- ・松本市中央3丁目4：松本市はかり資料館
- ・松本市丸の内4丁目1：松本市立博物館
- ・塩尻市大字洗馬 2323 番地 1：本洗馬歴史の里資料館

7月12日

- ・松本市大字島立 2196 番地 1：松本市歴史の里
- ・松本市大字和田 1715 番地 1：窪田空穂生家

**(3) 8月1日、2日**

宮城県仙台市、丸森町、福島県相馬市を調査した。

8月1日

- ・相馬市中村字北町 140：相馬中村神社
- ・伊具郡丸森町大内字七夕 77：七夕神社
- ・伊具郡丸森町大内宮下字梅ヶ作 5：八重垣神社
- ・仙台市若林区鶴代町 6-65：七夕ミュージアム

8月2日

- ・仙台市宮城野区五輪 1-3-7：仙台市歴史民俗資料館
- ・仙台市青葉区国分町 3-7-1：仙台市博物館
- ・仙台市青葉区一番町 4-10-18：文具のキクチ一番町店
- ・仙台市中央部：七夕まつり会場の商店街

## 第二章 七夕人形に関する先行調査のまとめ

筆者が各地の七夕を訪ね歩くきっかけとなったのは、松本の七夕人形である。以前から当地を訪れる機会が多く、ある夏の日に、市内のいたるところに不思議な人形が飾られているところに出くわした。それはちょうど七夕祭りのイベントの時であり、松本では七夕人形を飾るということを初めて知った。さらに、七夕人形コレクションで知られる松本市立博物館を訪問して購入した書籍には、松本以外の、各地の人形を伴う七夕の事例が紹介されていた。やがて、その書籍をもとに各地の七夕、それも人形が伴う行事を訪ね歩くこととなったのである。コロナ禍の本年度、改めて、その書籍や先行調査をひも解いた。

### 1. 七夕人形に関する先行調査事例

七夕人形についての先行調査が良くまとめられていて、比較的入手しやすいものはそう数は多くない。今回の先行調査のまとめは、下記の三冊がもとになっている。

#### ①松本市立博物館編『七夕と人形』郷土出版社、2005年7月23日

博物館訪問時に購入したもので、ネット通販でも購入できるし、地域の図書館に蔵書されていることもある。七夕人形の歴史や人形が持つ意味合い、各地の人形を伴う行事の紹介、そして松本の七夕人形について、が主な内容である。記載された事例である、糸魚川、黒部、滑川、山梨、熊本などの各地を訪ね歩く直接のきっかけとなった。

#### ②石沢誠司著『七夕の紙衣と人形』ナカニシヤ出版 2004年7月7日

こちらでもネット通販や書籍販売店で購入できるし、図書館にも蔵書されていることが多い。七夕の歴史、七夕と紙衣、七夕と人形について書かれており、筆者の石沢誠二氏が訪ね歩いた各地の事例が書かれている。石沢氏は、各地の七夕の事例を集めておられ、自分が知る限りでは、七夕人形に関する研究の第一人者の一人である。

#### ③松本市立博物館編『松本の七夕 2012 特別展 七夕人形の風物詩』

七夕人形を活用した地域連携事業実行委員会 2012年8月4日

特別展の図録であり、松本市立博物館へ赴くか、同館に照会して取り寄せるしかない様である。同館の七夕人形コレクション、松本の七夕人形のルーツなどに加えて、特徴的なのは、特別展開催当時の松本市内の七夕人形の行われ方を調査した結果と、そこから読み取れる新しい七夕人形のあり方について書かれており、伝統的行事の現在の様子を知ることができる点である。

## 2. 七夕人形に関する歴史的な変遷

### (1) 貸し小袖 の習俗

人形に連なる系譜として、着物を七夕に備える「貸し小袖」という習俗が挙げられる。

井原西鶴「好色五人女」貞享3年（1686）

仕立ててからまだ一度も袖を通していない着物を七つ重ねて七夕に供える。

中川喜雲「案内者」寛文2年（1662）

京都では、庭にごさを広げて、水を入れたたらい、机上の香炉と合わせて、衣桁に掛けた着物が飾られていた。

貸し小袖が行われた背景には以下の様な俗信があったと考えられる。

- ・その年は着物をたくさん着られる
- ・針仕事が上手になる
- ・来年もっと良い着物を持ってきてくれる
- ・体が丈夫になる

### (2) 七夕人形への変化

貸し小袖から紙衣へ、そして人形へ。文献の記述からもその変化が垣間見られる。

#### 1) 貸し小袖から紙衣へ

「長崎歳時記」（寛政9年・1797）

七夕に女の子が紙で衣服を作って飾る習俗の記述がある。この中では、

- ・本物の着物を飾る→ミニチュアの着物を飾る
- ・貴族や大人中心→子供主体へ

という変化が見てとれる。紙衣を飾る俗信は、貸し小袖と同じである。

#### 2) そして人形へ

天野信影（さだかげ）「塩尻」正徳4年（1714）

「町々縄を以て家と家の軒にかけ、路を横切りてこれをはり、夫に木にて人形をいとおろそかに作り紙衣をきせいくつとなく彼縄につりおく事、城下皆おなじ」

菅江真澄「委寧の中路」天明3年（1783）

女の子だけの踊りがあることを書き、お神酒や団子などをささげ、軒先に男女の人形をつるすことが書かれている。

菅江真澄「来目路の橋」天明4年（1784）

松本城下の町家に飾られた七夕人形の描写

岩下貞融（さだみち）「芋井三寶記」天保11年（1840）

「七夕に見世棚に人形飾りし事」の中で、「善行寺の町にて7月6日7日たなばたといひて、世の中に5月5日具足人形とてものする如き人形を、3月3日の雛のごとくにもてはやすことは」と記す。

江戸時代の新潟県での記述

- ・南魚沼郡塩沢町 「文化四年五月調風俗帳」（文化4年・1807）
- ・栃尾市 「越後国長岡領風俗問状答」（文化14年・1817）
- ・新発田市 「北越月令」（嘉永2年・1849）

### 3. 松本地域の七夕人形

#### (1) 松本の七夕

松本地域では、七夕人形・ホウトウ・月遅れ が特徴

人形を飾るのは、松本市、安曇野市、大町市、北安曇野郡など松本地方＝旧松本藩領とほぼ一致する。ただし、合併した元の地区によって飾らないところもある。

※ここでいうホウトウは山梨県で今親しまれている類とは異なり、うどんの様な幅広の麺に、黄な粉や餡子をまぶしたもの。

#### (2) 松本の七夕人形の形式

松本市立博物館の研究によれば、以下の4つの形式がある。

##### ①人がた形式

板製の人形を台として、毎年大祓の人がたと同じ色の色紙の衣を重ねていく形態自身のカガレを移して毎年張り重ねていく。主に武家地。

菅江真澄「委寧の中路」、笠亭仙果「於路加於比」から、江戸時代の七夕人形は角柱型のカガレを祓う形代として見られていた。

こうした木製角柱型人形は、松本城や大阪城の遺跡から発掘されている。

##### ※古代の人形代

①のように人形代を使つてのカガレ祓いは古代からあつた。材料は土、石、木、金属、紙、藁など。紙と藁は文献史料にのみ見られる。多いのは、木。全身を表す。共伴する人面墨書土器が多い。土器には、顔はドングリ眼や吊り上がった目大きな団子鼻。髭を生やして怒つたような顔が多い。という。

水野正好氏の研究によると、この顔はペルシャの王と従者であるという。古代、疫病は遠い国の鬼神がもたらすという考え方があり、胡人（ペルシャ人）のイメージと結びつき、疫病祓い・カガレ払いに、このような顔をした土器や人形代が使われるようになったという。

##### ②着物掛け形式

ハンガー型のものに頭がつけてある。七夕様に着物をお貸しするとして、子どもの着物を吊るすもの。

「もっといい着物が返ってくるように」「子どもが丈夫に育つように」との意味。子どもが生まれると、親戚などから贈られた。

##### ③紙雛形式

紙製で、まれに布製のものもあるが、ひな人形と同様に一種の観賞用的なものに変化し、年々タンスから取り出して吊るすもの。

#### ④流し雛形式

雛人形形式のもので、一年限りで河川に流してしまうもの。

ケガレを祓って流してしまう。安曇野市明科、大町市八坂、松本市里山辺など。

## 4. 全国の七夕人形

### (1) 姫路の「七夕さんの着物」

兵庫県市川流域、姫路市の妻鹿（めが）、白浜、八家（やか）、東山、的形、大塩から高砂市の曾根に至る播磨灘沿岸地域に伝承。昭和40年代に家々で行われていたのが目撃されて、調査された。今では孫の初七夕の祝いに手作りする古老がいる。いくつかの店では七夕の季節に合わせて紙衣を独自に製作販売している。

#### 1) 播磨灘

##### ①大塩地区

「着物をたくさん作ると裁縫がうまくなる」「将来に着物に不自由しなくなる」との意味がある。初七夕が最も華やかだが、子どもがいる家ではその後も毎年飾り続ける。

8月6日の早朝、笹を山から切ってくる。二本の笹に短冊や切り紙細工を飾り、杭に括り付けて立て、そこに竹を渡して着物を掛ける。縁側の机には、初物の野菜を供える。初七夕の家は親せきから送られた提灯をいくつも軒下にぶら下げる。夜になると子どもたちが「あらかして…」と袋をもって、初七夕の家を回りオヤツをもらい歩いた。翌朝、飾りも着物も濡まで行って流した。

##### ②東山地区

「七夕さんの着物を祝ってもらいと、子どもは着るものに不自由しない」「衣装に恵まれる」との意味合い。初七夕がにぎやかだが、毎年出して飾る。

##### ③その他の播州一带

姫路市、神崎郡（市川水系）、飾磨郡（夢前川水系）、龍野市・揖保郡（揖保川水系）、加古川市（加古川水系）の七夕飾りはおおよそ以下の通り。

8月6日早朝から用意。日本の笹を立てて、笹には短冊や切り紙細工を飾る。二段に竹を渡して、初物の野菜を掛ける。これらを調達するのは子供の役目。子供は「タナバタさん、ホオズキとってもダンナイか？ ダンナイ、ダンナイ」と唱える。机を出して、スイカ、カボチャ、牛に見立てた茄子、おはぎや団子を供える。川から小鮎やメダカなどを取ってきて、金魚鉢に入れて飾る。夕方、子どもたちは、七夕飾りのある家々を周って、煎り豆、あられ、オハギなどをもらい歩く。7日の朝に飾りや野菜を川に流した。

#### 2) 生野町の「七夕さん」

姫路市から市川をさかのぼったところにあるのが生野町。銀山で栄えた町である。

8月6日早朝に笹を切り出して、日本の笹に飾りを施す。立てた笹の間に芋がらを渡して、「七夕さん」を飾る。飾ると、着物に不自由せず健康に暮らせるのだという。

縁側の机に、ナスやキュウリ、スイカ、ナンバキビなどを供えた。

翌7日の朝に飾りも人形も流すが、人形は取っておいて、翌年以降も飾ることもある。明治40年頃は町内各所でやっていたが、昭和30年第頃から見かけなくなる。町おこしとして、宿郷「井筒屋」では復元されて展示される。

### 3) 市川流域 神崎郡大河内町南小田の「七夕さん」

8月6日早朝に近くから二本の笹を切り出す。願い事を書いた短冊を飾り、庭に面した縁側に固定し、竹を渡す。色紙による着物と初物の野菜を吊るす。男物は青い紙、女物はかわいらしい色紙。スイカやトマトは机に供え、川からとってきたトチノコを金魚鉢に入れた。飾りが出来上がると、子どもたちは家々を周って、おはぎやお菓子をもらい歩く。7日朝に飾りは流していた。

## (2) 仙台七夕まつり

伝統的な飾り物として、短冊、紙衣、おりづる、投網、屑籠、巾着、吹き流し、の「七つ道具」「七つ飾り」がある。紙衣には、「病気や災難などの厄除け」「裁縫上達」の願いが込められる。仙台市博物館には対象の物など16点の人形がある。布製のものもある。棚機女が織って七夕様にささげた衣であり、技芸の上達を願う。身代わりとして、病や災いを移して流し去るヒトガタの伝承も併せ持つ。

## (3) 青森のねぶた

ねぶたの語源は「睡し（ねぶし）」。「忙しい収穫の農作業の妨げにならないように、暑い日に襲ってくる睡魔を七日日（ナヌカビ）に追い祓う願いが込められている。7日の朝に、ネブタ流し、ネムリ流しと言って、合歓の木の小枝や大豆の葉で目をこすり、川に流す。「ネブタ流れろ、マメの葉はとどまれ」という。

子供たちが木の枝に灯籠を下げて担いで歩き、7日に川や海に流す。

夏の終わりの神送りの行事や災難を水に流し心身の禊をする習俗、盆の精霊送りである灯籠送りなどが習合、変化したとみることができる。

#### ・比良野貞彦「奥民圖彙」の「ネムタ祭りノ圖」

7月朔日ヨリ6日ノ夜マテ如圖燈籠夥敷。町在トモ同シ。大キサ二間三間或ハ五間ニ作り、大小トモ火ヲ燈シ、笛太鼓ニテハヤシ、夜行ヲス。聲甚カマヒスシ。ネムタハナカレロ、マメフハトヰマレトハヤスナリ。

#### ・大須賀覆「磐白誌料歳時民俗記」明治25年（1892）

合歓木ノ葉ト豆ノ葉ヲ川ヘ流シ「ねむたは流れろ、まめのはとまれ」トイフ。此俗ハ津軽辺ニモ行ハルハナリ。

ねぶた祭りで7日の晩に人形灯籠を船に乗せる海上運航は、ねぶた流しの名残である。

同じように人形を流す行事では、七夕ではないが、神送りである鹿島信仰の鹿島送りがある。鹿島人形という小さな人形を作り、ケガレや悪霊を形代につけて、藁などで作った小舟に流す。

## (4) 山梨市周辺の七夕人形「オルスイさん」

山中共古「甲斐の落葉」（大正15年・1926）に「盗人ヨケトテ七夕ヘツケシ赤紙ヲ衣服トシ木ヲケヅリテ首トシ目鼻ヲ画キタル小口ニサゲテアリシオ善光寺地中ニテ見ル」

と挿絵とともに、七夕の五色の短冊に盗難除けの呪力を認めた記述がある。

山梨市市川のお宅では、7月7日の午後にとってきた竹に人形一对と短冊と網を飾る。牽牛と織女。七夕が終わると七夕様と書いた和紙に包み、葺の鴨居に打ち付けておく。

オルスイさんを考えるうえで興味深い行事としては、旧須玉町の若神子で7月30日に行われるほうとう祭りがある。三輪神社の例大祭で、大きな藁人形が作られて、参詣者が体の悪い部分をなでた形代を腹掛けに納める。月遅れの夏越の祓である。小豆ぼうとうが儀礼食なので、祭り名となった。境内では虫除けのどんどん火がたかれ、夏越の祓と虫送りが習合している。虫送りの形代はムラ境まで運ばれて燃やされるか、境の神として立て置かれる。オルスイさんも、同じような意味合いで家の守り神になったのだろう。

#### (5) 中条町村松浜の七夕舟と人形

中条町は、新潟県胎内市にある旧蒲原郡の町。かつては、半農半漁の暮らしと、北海道や福島県へ、テグリと呼ばれる底引き網漁に出稼ぎしていた。

七夕舟は昭和30年代に絶えたが、平成3年(1992)から七夕舟飾り伝統制作伝承会が主催し、8月の第一日曜日に行っている。人形、灯籠、短冊、騎馬武者、オショロブネ(盆に祖先の霊を送るための舟)を作る。

行事は8月1日の人形づくりから始まる。男(騎馬武者)と女(ひな人形)二体を一对として、7日まで神棚の下につるす。

7日に舟を作る。材料の麦わらは各家庭から出して、小中学生が集める。集めに行くと、スイカや菓子がもらえる。早めに夕飯を済ませて海上の安全と身体健全を祈ってお参り。舟の上に人形を吊るす。集落の中ほどの道路で、夜9時過ぎに押し合いが始まる。舟の前で子供たちが「竹に短冊七夕さまよ、ローソクだせだせよ、ださねばかっちゃんぞ」と掛け声をかけて押し合いが始まる。三回戦で、舟が地面につくと負け。勝負に勝つと豊作・大漁。押し合いの後、上と下の集落を一周して舟を流す。23から24時頃に提灯に火をともして帆にぶら下げ、青年団が沖まで流しに行く。2, 3時まで及ぶ。集落一周から流すまで「タ~ナバタ サ~マ マタ~ライネン ゴ~ザレヤ ワ~ワ~ワ~」と掛け声をかけ続ける。

七夕の舟はお盆に亡くなった人をむかえに来る舟であり、盆の行事と習合している。

#### (6) 糸魚川根知の「お七夕」

花嫁行列を綱飾りにする。7月7日に飾られ、8月7日に根知川に流される。明治中頃以前にさかのぼる。昭和40年ごろに途絶えたが、10年後くらいに復活した。6月10日過ぎから区内で紙などをもらい歩くそれらをもとに七夕人形を作る。

8月7日に降ろし、「オタナバタサマイノー マタライネンゴザイノー カイモチカッテゴザイノゴザイノ」と歌いながら松明を灯して山寺橋にもっていき、根知川に流した。

綱張りという七夕飾りは糸魚川市から上越市にかけての海岸線に見られる。色紙を三角に切ったのれんのように下げるのが糸魚川市浦本、田伏にある。祇園祭と習合している。祇園祭もこの時期にはやった厄病除けであり、人形を伴う。

### (7) 滑川のネブタ流し

柳田国男「眠流し考」(大正 15 年・1926) で日本海側に存在するネブタの現在知られている最南端のもの、と記述。重要無形民俗文化財。7 月 31 日、午前中にナスやキュウリに目鼻を刻んで、色紙の着物を着せて割りばしにつけたヒトガタを作る。午後、5 メートルを超える藤くずを芯にして笹を巻き、竹棒を支柱とした胴、栲木や太い竹で作った台木を合わせたネブタにヒトガタを刺す。18:30 にネブタに点火されて沖に運ばれる。

地区の櫛原(いちはら)神社で茅の輪くぐりが同日にある。月遅れの夏越の祓。滑川のネブタ流しは、夏越の祓と人形送り、虫送りが習合している。

県内の入善町でも、8 月 6 日夜に、杉葉で作った舟を海に流す「七夕舟」が行われ、舟の端にはナスやキュウリのヒトガタが取り付けられる。

### (8) 黒部市尾山の七夕流し

8 月 7 日、泉川で行う。中心は女子が流すあねさま流し。四方にキリコを飾った板にあねさま人形を載せたものを流す。男子は、七夕舟を作って流す。

近くの中陣では7月31日。前川に麦わらで作ったニブ舟にろうそくを灯して子どもたちが川に流す、ニブ流しがある。流す前に舟を頭に載せて村中を練り歩く。

石川県のキリコ祭りは祇園祭や天皇祭りと習合したが、富山県内のもは古式を伝えていて、ネブタ流しの様相が強い。

### (9) 京都の紙衣「七夕さん」

江戸時代後期から明治にかけて行われた。紙衣は振袖や小袖が主だが、被衣、袴、羽織、袴なども。「西陣の七夕織」と長らく呼ばれてきたが、中京区や下京区などの民家の子女が作ったこと、寺子屋では裁縫教育の一環となったことがあったことから、西陣だけではないことが分かった。紙は七夕用の千代紙。「タンスに入れると着物が増える」という言い伝えがある。大津市でも事例が発見されている。

### (10) 熊本県南部の七夕綱

熊本県の芦北から八代にかけて。8 月 6 日か 7 日に道路か川に、藁で作った人形や草履、足半などを吊り下げた長い綱を渡す。八朔の日前後に取り払い、焼くか川に流す。星祭り、農耕、防塞、盆行事が習合している。綱の内部は聖域。大きな草鞋はそれを履く神がいることを示して悪霊に見せつけている。

#### 1) 下白木

200 年以上前から。人形、牛のクツ、ヒュー、卵、七夕の文字などを飾り、天月川と道路を渡す。七夕様は老人になっている。一年に一度逢うときに綱を張ってあげる。

#### 2) 岩谷川川内

藁で作った人形、草鞋、メ、ヒュー、卵など。取り除くと焼き払う。村の入り口から山奥まで張っていたので昔は長かった。盆になると先祖の霊が山から下りてくるので、道を示しているとも、悪霊除けともいわれる。

### 3) 木々子

8月6日の朝に神社に集合し、藁で人形、草履、卵、扇などを作る。中谷川と道路を横切るように張る。取り除くのは盆前くらい。焼くか、木にかけて腐るのを待った。七夕様が綱を渡って会う、ムラに悪霊が入りこまないなどの意味がある。現在では、先祖供養と豊作祈願。

### (11) 宮崎県日之影町の精霊着物

西臼杵郡日之影町見立にて。七夕の日に仏壇の前に精霊棚を竹で作る。7日に新しい浴衣と帯を掛けて16日に外す。精霊様が降りてきて着物を着て16日に帰るといふ。以降、家人がそれを着る。

## 5. 人形を中心とした七夕の諸相

### 1) 収穫感謝祭

「七夕様は初物好き」ということで、旬の収穫物を備える。

松本市では、人形とともに季節の野菜の煮物（茄子、ジャガイモ、ニンジン、ミョウガ）、ホウトウを備える。

市内の稲核では、七夕飾りを集めて子どもたちが火をつけて川に流す。ジャガイモや棒などを持ち寄り、芋煮をして共同飲食をした。これも収穫感謝とみることができる。昔、七夕に子どもたちが小屋に集まって共同飲食する風習は全国に見られた。

兵庫県では、二本の笹竹を立てて竿を渡して、七夕さんを飾り、キュウリやカボチャ、スイカを備える。ここでの七夕人形は七夕様の偶像らしい。

七夕を田褒めの日とする。九州や西日本などでは七夕は田の神様。八朔との習合で、八朔人形を飾るところもある。

### 2) 禊祓

7月7日を「ナノカビ」「ナノカボン」と呼び、盆の始まりとするところが多い。

松本市里山辺では色紙を切って人形を作り、七夕の竹に飾る。八日の朝早く近くの川に流した。盆迎えの禊の人型と考えられる。

柳田国男「信州随筆」には、全国の眠流しは、盆迎えの禊祓で、人形が重要な役割を果たすとある。

弘前や黒石のねぶたも、江戸時代の文献では「七夕祭」と表記される。七夕行事の一番大きな人形が、ねぶた。盆をむかえるための祓の贖物が、城下町で祇園祭の宵山と習合し発展したと思われる。ただし、青森のねぶたは、江戸中期には虫送りや習合しているなど、様々な要素が絡み合っていることがわかる。

夏越の祓、大祓は、神社での茅の輪くぐりが行われる。ヒトガタで体をなでて息を吹きかける祓の儀式。神迎えの潔斎。盆よりも古い習俗。滑川市のねぶた流しは、7月31日に行われ、ナスやキュウリに紙衣を着せてヒトガタとして、体をなでて息を吹き替えて、ねぶたにさして海に流すことから、月遅れの夏越の祓とみられる。

黒部市中陣でのニブ流し、黒部市尾山の姉様人形を川に流す七夕流し。これらも夏越の祓の様相が色濃く残っている。

仙台七夕の七つ道具の紙衣も、病や災いを肩代わりする。

### 3) 虫送り

稲の病害虫を退散させるため、村人が松明を手に、鉦や太鼓を鳴らして畔を歩きまわる。

菅江真澄「外浜奇勝」(寛政8年・1796)

大館にて、虫送りをする様子がある。人の形代や、虫の形代を持ち寄って、鳴り物を鳴らして田を歩いている様子が描かれる。

根地のお七夕は、津軽の嫁送り(津軽でテントウムシをヨツメッコ虫と呼ぶ事に由来)という虫送りと重なる。根地も8月7日に川に流すときに松明を持ち、虫送りの様相が残る。

西日本では「実盛送り」といい、甲冑の武者人形を先頭に行われる。

### 4) 人形送り

疫病や災いをムラから締め出すために、流行時に行われる。祇園祭との関連で夏が多い。

茨城県の鹿島流しも、その一つ。

山梨のオルスイサンは、鹿島流しの鹿島人形の境の神の延長線とみることができる。

新潟県栃尾市の七夕綱飾りは大名行列を飾る。これらは村境を守ることが役目。

熊本県南部では盆明けや八朔まで綱を張り、ムラを清浄な状態に保つ。

松本の七夕人形も、江戸時代には道を渡っていた。今は失われた道切りの姿。

## 6. 終わりに

自分を各地の七夕へといざなうきっかけとなった七夕人形。今回、久しぶりに関連書籍を紐解いて先行研究をまとめてみると、そこに潜む様々な意味合いを再認識できた。多様な様相をみせる七夕行事だが、人形をキーワードにしてみると、ある程度の分類が可能となる。読み落としていたことばかりの方が多く、訪問した時にはその意味合いに気づくことなく見ていた行事もある。認識を新たにして再度訪問できれば、見るポイントも、行事への理解も変わってくるであろう。そして何よりも、姫路地区では、子どもたちが家々にお菓子をもらいに歩く、ということが、北海道のろうそくもらいに通じる事例として大いに興味を持った。今回のまとめで得た知見は、今後のデータベース作成や、現地調査の際に大いに活かしていける。そんな意味では、コロナ禍でフィールドに出られなくなったことに感謝をすべきかもしれない。

## 第三章 現地調査の成果

### 1. 山梨県における調査の概要

#### (1) 調査エリア

- ・南アルプス市
- ・甲府市

#### (2) 調査の結果

##### 1) 南アルプス市

コロナ禍で各種行事が中止となる中、博物館では企画展が行われるところもあった。南アルプス市でも、七夕人形の飾り付けが行われると知り調査に出かけた。

##### ①ふるさと文化伝承館（南アルプス市野牛島 2727）

令和2年7月4日10時ころ訪問。

旧八田村エリアにある。主に縄文期の土器や土偶、地域の治水事業の歴史などを展示。七夕人形の調査も進められている。



##### ②安藤家住宅（南アルプス市西南湖 4302）

令和2年7月4日14時ころ訪問。

旧楡形町エリアにある国指定重要文化財。江戸時代の名主の家が当時の姿で保存されている。この時期に七夕飾りをしている。



この地域に伝わる人形を再現したもので、同家に残されたものではない。また、人形を飾る風習は同家にはなく、市の文化財課からの要請によるものだという。

## 2) 甲府市

県立博物館での七夕人形制作に赴くつもりであったが、甲府滞在中に東京でのコロナ患者急増に伴う不急不要の移動自粛要請が発令されてしまい、博物館へ足を運ぶのは断念。図書館での文献調査に切り替えた。

### ①山梨県立図書館（甲府市北口2丁目8番1号）

令和2年7月5日10時ころ訪問。

県内の先行研究の論文、それが引用している参考文献を入手。合わせて、合併前の南アルプス市版図の旧自治体の史誌も調査した。



#### ■入手した文献

##### 1) 先行研究に関するもの

- ・信清由美子「山梨の七夕人形」、『甲斐』第124号 山梨郷土研究会、2011年7月14日
- ・上野晴朗『やまなしの民俗 祭りと芸能 下巻』光風社、1973年5月20日
- ・甲府市市史編さん委員会『甲府市史 別編I 民俗』甲府市役所、1988年3月20日
- ・富士見村役場『富士見村誌』富士見村役場、1957年3月1日
- ・山梨市市史編さん委員会『山梨市民俗調査報告書 日川の民俗』山梨市、2001年9月1日
- ・塩山市史編さん委員会『塩山市史民俗調査報告書 平成4年度 神金の民俗』塩山市、1993年3月25日

##### 2) 釜無川流域の七夕に関するもの

- ・櫛形町誌編纂委員会『櫛形町誌』櫛形町誌編纂委員会、1966年6月1日
  - ・甲西町誌編集委員会『甲西町誌』甲西町誌編集委員会、1973年7月20日
- ※現南アルプス市を構成する旧6自治体（八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町）の内の八田村、芦安村、櫛形町、甲西町、近隣の竜王町、韮崎市、旧長坂町（現北杜市）の七つの市町村史誌に目を通すことができた。その内、櫛形町、甲西町のものに関連する記載があった。

##### 3) その他 天文史跡「星石」関連

- ・中村良一「竹居の星石を考察して」、小林茂編『甲斐路』第43号 山梨郷土研究会、1981年12月20日
- ・中村良一「花鳥山麓の星石 続」、小林茂編『甲斐路』第63号 山梨郷土研究会、1988年6月20日

### (3) 調査の成果

以前から、甲府盆地には特有の七夕人形文化があることは知っていた。先行研究では、主に笛吹川流域という盆地の東部での調査事例が報告されている。今回は、盆地西部の釜無川流域、主に南アルプス市内の七夕人形を見て歩くことを主な目的とした。東部のものは裾が長く、西部のものは袖が長いという特徴がある。安藤家住宅の人形は、後者のタイプになる。この違いがなぜ生じたのか、というのが調査の動機の一つでもあった。七夕人形展示の今回のタイミングでは、ふるさと文化伝承館の専門の学芸員が不在であった。人形を飾っている安藤家住宅では、文化財課に詳しいことは照会をしてほしい、と言われてしまい、核心に迫ることはできなかった。だが、次なる調査先が見えたという成果はあった。伝承館で限定配布していた、人形制作キットも入手できた。

二日目は甲府市内の県立考古博物館での七夕人形制作（こちらの物は裾が長い）を体験する予定であったが、折悪しく東京でのコロナ患者急増に伴う不急不要の移動自粛要請が調査初日の午後に出されてしまった。体験を共にするのが、お子さんのいる山梨県内の家族であるということから、万が一合を考えて参加を見合わせた。職員からは、近くに来た際に案内が可能、といわれており、再訪問をしようと考えている。図書館もコロナ禍の影響により滞在時間が制限されており、心行くまで調査ができなかった。

## 2. 長野県における調査の概要

### (1) 調査エリア

- ・松本市
- ・塩尻市

### (2) 調査の結果

#### 1) 松本市

松本の七夕人形については、これまでも何度か目にはいた。今回は、まつもとの七夕というイベントにおける、市内の各博物館や資料館での七夕人形の展示を見て回り、市内まるごと博物館としての松本市の取り組みを調査した。

#### ①松本市はかり資料館（松本市中央 3-4）

令和2年7月11日10時ころ訪問。

はかる（測る、計る、量る）道具を集めた資料館。松本の七夕2020に合わせて、この時期限定で人形を館内に飾りつけていた。



②松本市立博物館（松本市丸の内 4-1）

令和2年7月11日11時半ころ訪問。

重要有形民俗文化財に指定された七夕人形コレクションで知られ、同人形の研究についての中心的役割を果たしている。



【松本地域の七夕人形】

4種類のタイプがあり、ケガレを祓って川に流す「人形形式」「流しびな形式」は廃れ、今は「着物かけ形式」「紙雛形式」が七夕で飾られるようになっているという。

③松本市歴史の里（松本市大字島立 2196-1）

令和2年7月12日10時ころ訪問。

松本の歴史的建造物が移築されている。旧昭和興業製糸場で人形制作体験、木下尚江生家で人形の飾りが期間限定で行われていた。



④窪田空穂生家（松本市大字和田 1715-1）

令和2年7月12日12時ころ訪問。

窪田空穂は明治から昭和にかけて活躍した歌人・国文学者。彼の生家でも、松本の七夕2020に合わせた人形が飾られていた。



## 2) 塩尻市

### ①本洗馬歴史の里資料館（塩尻市大字洗馬 2323 番地 1）

令和2年7月11日14時半ころ訪問

本洗馬にゆかりのある文人の史料や郷里の焼き物を展示。釜井庵では、毎年、菅江真澄が「委寧の中路」で記した七夕人形の風景を再現している。



## (3) 調査の成果

以前にも松本市立博物館を訪れていたが、現代の七夕祭りにとらわれていて、見落としていたことがいくつもあった。まずは、時代とともに変遷する七夕人形のあり様である。昔はケガレ祓いの意味合いも持っていたものが、今では薄れているということは、七夕の意味がどう変わってきたのかを知る手掛かりとなる。また、この地域の道祖神は、男女の二体が石に掘られることが多いが、七夕の時期になると、安曇野地域では道祖神に笹飾りをするという。もともとは七夕と関係のないものが、男女＝織女と牽牛の組み合わせと同一視され、意味合いが変わってきた事例である。このようにして、伝来以来、おそらく七夕は様々な日本の習慣と集合してきたのであろう。松本の七夕は、イベント的には毎年7月7日ころから8月7日まで行われ、市内の博物館が連携して、七夕飾りや人形制作体験を行っている。また、市内の商店の店頭にも人形が飾られるなど、地域を盛り上げる観光資源でもある。2020年は初めて、ケガレを移した形代を8月8日の朝に川に流す「形代流し」が行われた。コロナ禍の終息を願ってのことで、今は廃れた古来の七夕人形の役割が、期せずして復活したことになる。いつの時代も、七夕は祈りや願いを込める対象や行事であるという本質は変わらない。

釜井庵は、菅江真澄が江戸時代の七夕人形を書き留めた場所である。今年は彼の没後190年ということで、企画展示も催されていた。彼が書き留めた「七夕ささら踊り」が、かつては地域の夏祭りで行われ、今は、小学校の運動会での催しに引き継がれていることを知った。伝統的な行事が形を変えて、地域で行け継がれている例である。

## 3. 宮城県における調査の概要

### (1) 調査エリア

- ・仙台市
- ・丸森町

### (2) 調査の結果

- 1) 仙台市

仙台七夕まつりは、コロナ禍で中止となった。だが、博物館では七夕に関する企画展が開かれ、商店街では、まつりを行う伝統をたやさないための試みをしていた。そんな様子を追うべく、仙台を訪れた。

①仙台市歴史民俗資料館（宮城野区五輪 1-3-7）

令和2年8月2日 10時ころ訪問。

旧陸軍歩兵第四連隊の兵舎を移築したもの。仙台七夕まつりの変遷を、大正から昭和にかけての写真で綴る季節展を開催していた。



②仙台市博物館（青葉区国分町 3-7-1）

令和2年8月2日 11時半ころ訪問。

仙台伊達家から寄贈された資料を中心に、支倉常長や仙台藩の天文に関する展示などがある。仙台七夕まつりの着物も収蔵している。



③文具のキクチ一番町店（青葉区一番町 4-10-18）

令和2年8月2日 15時ころ訪問。

オフィス用品やOA機器を広く扱う。仙台七夕まつりの歴史や文化をHPで発信し、七夕飾り制作用のキットや資材も販売している。



④七夕まつり会場の商店街

令和2年8月2日15時ころ訪問。

普段は絢爛豪華な飾り付けが行われている。コロナ禍による祭り中止の今年は、小規模ながらも飾りつけをして文化継承に努めている。



2020年度七夕飾り掲出商店会

中心部商店街	
No.	商店会名
1	一番町四丁目商店街振興組合
2	一番町一番街商店街振興組合
3	サンモール一番町商店街振興組合
4	おおまち商店街振興組合
5	クリスロード商店街振興組合
6	名掛丁商店街振興組合
7	仙台駅前商店街振興組合



⑤七夕ミュージアム（若林区鶴代町6-65）

令和2年8月1日17時ころ訪問。

笹かまぼこを製造する会社で作った、日本で初めて七夕飾りを常設展示するミュージアム。七夕まつりの歴史や飾りの変遷などがわかる。

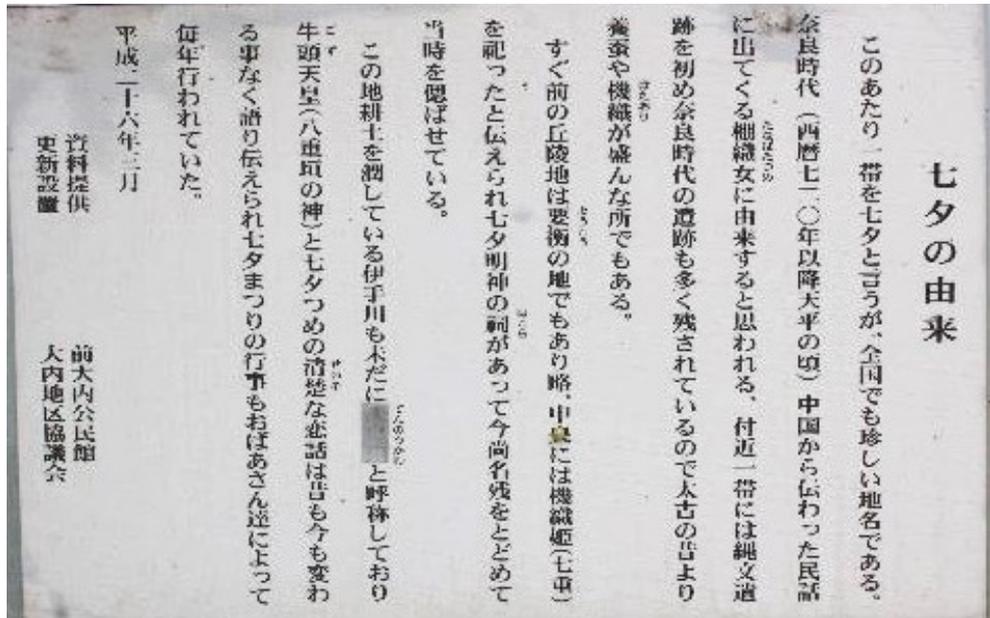


## 2) 丸森町

この地には、七夕という全国的にも珍しい地名がある。数年前、金津七夕の際に訪問したが、七夕神社を探せないなど、不完全であったので、再訪問した。

### ①七夕神社（伊具郡丸森町大内字七夕 77）

令和2年8月1日 13時ころ訪問。600年ほど昔、地元の七重という美しい娘の悲恋を知った村人が、娘を機織りの神として祀った神社。



### ②八重垣神社（伊具郡丸森町大内宮下字梅ヶ作 5）

令和2年8月1日 13時半ころ訪問。

牛頭天皇と称され、牽牛の言い伝えが残る。前を流れる伊手川は天大川ともいわれ、七夕神社との位置関係で天の川に見立てられる。



### (3) 調査の成果

歴史民俗資料館では、季節展示として「仙台七夕と盆」を開催していた。七夕に関するコーナーはかなり小さく、絵ハガキやポスター、それから宮城、福島などの七夕馬が展示されていた。盆の方は、盆棚が再現されており、姫路の七夕人形の七夕棚に似ている印象を受けた。七夕人形の要素の一つに、ムラの境において邪悪なものからムラを守る存在があるが、同時開催されていた「わらと生活」展においても、七夕ではない季節に行われる似たような習俗が紹介されていた。七夕と結びつく前の古来からの行事の姿が見られるのかもしれない。

仙台市博物館では、仙台七夕まつりに欠かせない七つ飾りの一つである着物のコレクションのうち、大正時代のものが展示の一角を形成。紙製や布製の物、産着や振袖など、飾りには種類がある。七つ飾りには、それぞれ願いが込められている。着物には「裁縫の上達」「病や災いの身代わり」の二つの意味合いがある。七夕には人形が介在する事例が多いが、前者は中国伝来の乞巧奠に、後者はケガレを祓う形代に由来するとみる先行研究もある。

公的な博物館だけでなく、民間企業が作った七夕ミュージアムもあり、その企業がこれまで出展してきた飾りや、絵ハガキ、ポスターなども掲示されて、仙台七夕の歴史や文化を気軽に見るができるようになっていた。市民が、自分たちのものとしての誇りを持っているのが伝わってくる。

市内には、七夕関連の商品（飾りを作る和紙、飾りのキットなど）を販売する店がいくつもあるが、その一つでは、自宅でも七夕飾りが楽しめるように、キットを店頭で販売していた。今年は、コロナ禍により七夕まつりが中止となったが、商工会議所などは、こうした飾りを店頭で飾ってもらうことを勧めていた。地域との協力なしには祭りの開催はできず、一度途絶えると、再開することが難しくなる懸念もあってのことだという。実際、普段は大規模な飾りが見られる市内のアーケード街には、小さな飾りが店頭やアーケードに飾られていた。また、来年逢いましょう、と希望を込めたメッセージの幕も掲げられていた。

七夕という地名が県の南部、福島県境近くの丸森町にある。そこには、七夕神社があり、今回はその由来となった地域の七夕話を、掲示された看板から知ることができた。以前訪問した時には、それほど七夕神社が地元でも注目されておらず、神社そのものを見つけないことができずにいた。今では毎年七夕の時期に、織物体験と合わせて、神社を訪問するツアーが組まれるほどになっている。七夕神社と川を挟んで、牽牛の言い伝えのある神社があり、川は天の川に見立てられている。織女と牽牛そして天の川というスカイスケープが、そのまま写し絵として、地上でランドスケープとして展開されているのは興味深い。

## 4. 福島県における調査の概要

### (1) 調査エリア

・相馬市

### (2) 調査の結果

七夕に関する調査が中心ではあるが、調査地や付近、その道中にある天文史跡も訪問することは昨年からも継続した。丸森町からは車で20分ほどで、妙見信仰で有名な相馬へ行けるので、足を延ばすことにした。

#### ①相馬中村神社（相馬市中村字北町 140）

令和2年8月1日10時半ころ訪問。

相馬を支配した中村氏は、妙見信仰で有名な千葉一族の出身。地域では妙見信仰が盛んであった。丸森町に残る七夕伝説も影響を受けているとも。



### (3) 調査の成果

宮城県南部は、そう遠くない福島県相馬市の中村氏一族の妙見信仰が広まっている地域である。検証が必要となるが、とあるホームページでは、丸森町の七夕伝説も、この妙見信仰の影響が及んでいるという。距離にして20キロほどであったので、相馬市の中村神社にも足を伸ばした。相馬の中村氏は、千葉一族の流れを汲んでおり、相馬や南相馬一帯には妙見神社がいくつもある。千葉一族の妙見信仰が中村氏、そして伊達市へと伝わっていく過程をたどることができる。今回は七夕神社との関連での、手短な訪問であったが、妙見信仰を研究する上では避けて通れない土地であり、じっくりと尋ねる価値がある。

## 第四章 七夕データベース構築にむけて

コロナ禍でフィールドに出られないことから、今年度は机上での調査や研究が主となり、これまで自分が見聞したり、収集した資料を見直す機会となった。そのことで、再発見もあった。七夕人形の先行研究では、人形を切り口に七夕行事の諸相を見ることで、ある程度、行事の持つ意味合いがカテゴライズされ、把握しやすくなる。七夕行事は数が膨大であり、その様相もさまざまである。そうした混とんとした七夕行事世界をこんな風にある程度分類できれば、今後の訪問や調査研究にも役立つはずである。

七夕行事の多くは、その情報が分散している。記載されていても、特にその基準はない。ある一定のフォーマットで七夕行事の情報をまとめ、それを検索できるようなデータベースの様なものがあると、とても役に立つはずである。国内で七夕行事の大々的な調査が行われた事例としては、1962（昭和37）年度から1964（昭和39）年度にかけて文化財保護委員会が実施した「民俗資料緊急調査」がある。調査の報告集として、文化庁編「日本民俗地図」があり、その第1巻「年中行事1」に「七夕」の項目がある。ここには、統一されたやり方で調査された1300カ所以上で収集された事例がある。だが、行事は時代とともに移り変わる。調査からすでに半世紀。日本人の暮らしは、高度経済成長を経て、大きく変わっている。この調査結果は、すでに現状とは合わなくなってしまっている。

そこで、現在の事例をまとめたデータベースの構築に向かって動き出そうと考えた。まとめる対象としたのは、筆者がこれまで訪ね歩いた各地の行事や、七夕関連のモノ・コトのおよそ50の事例である。いきなりデータベースと言っても正直、何から手を付ければいいのか皆目見当がつかない。そこで、上記の事例の情報を、共通のフォーマットに落とし込んでいくことにした。学芸員が調査に使う調査票などを参考として、書き込んで手を加えつつ、現時点での形に落ち着いた。

正直、まだ改良の余地はある。キーワードや分類なども、不足或いは不十分であるとの自覚がある。第三者から見て、必要な情報が揃っているのかも疑わしい。あくまでも、データベースにつながるもの、雛型レベルでの試作品の報告となる。そのため、今後、改良や発展をさせていくことが容易なように、本報告書とはファイル、報告書共に分けて、独立したものとした。カード自体については、別冊「七夕データベース構築のための情報カード」を参照されたい。

筆者は、訪問しても、データの整理やまとめというものがおろそかになりがちである。今回は、この十数年分のデータを整理できる良い機会ともなった。今後は、現地調査の結果を落とし込みつつ、書籍や紙資料、インターネットに掲載の事例なども盛り込んでいければ、と思っている。

## 第五章 次年度に向けて

現時点では、コロナ禍がどうなるかが見通せず、現地へどれだけ赴くことができるのかも不明である。そういったことはとりあえず脇に置いて、次年度に取り組むべきことを記していく。

### (1) 各地の七夕の事例のフィールド調査の継続

コロナ禍の終息次第だが、昨年度に訪問先として候補に挙げたリストの中から、残り少ない調査期間で行くべき候補を絞り込んで、訪問をする。今時点で絞り込んだのは以下の通り。

#### ー冷泉家の七夕（京都府京都市の冷泉家・旧暦7月7日）

宮廷文化系の代表である。非公開であり、冷泉家の関係者以外は見ることができないので、調査目的ということでの申請や手続きなどが必要となる。また、儀礼の詳細を記録し、多くの視点で見るために、筆者以外に複数名での調査を希望する。

#### ー陸前高田の動く七夕祭り（岩手県陸前高田市・8月7日）

町内の12ある祭り組みによる山車がでて、囃子に合わせ勇壮に町を練り歩く。夜になると山車の飾りも変わって灯がともる。ねぶた系統？の七夕祭り。

#### ー藤塚浜の七夕祭り（新潟県新発田市藤塚浜・8月12日）

子供たちが木製屋形船を引き回す。七夕太鼓を打ち鳴らし、「タナバタサーマ マタライネンゴザレ」と歌いながら船を引く。夜にその船を海へ流す。

#### ー姫路の七夕紙衣（兵庫県姫路市の播磨灘沿岸の地域・8月6、7日）

初七夕の子どもを祝い、2本の笹竹に紙衣を通した細竹を渡して飾る。6日に人形を飾り、翌日になると笹竹は海に流す（現在は流さず回収する）が、紙衣は保存し翌年も使う。

#### ー大東七夕祭り（島根県雲南市大東町・8月6日）

短冊と提灯をつけた笹竹を手に、「さーい さーい さいさい てんてこさんの七夕さん てんてこさんの七夕さん 七夕さんを送くーわ 七夕さんを送くーわ」と歌いながら、各地区で作る大提灯や山車とともに町内を練り歩く。

#### ー久見の星祭り（島根県隠岐郡五箇村久見・8月7日）

星形のアンドンに、ろうそくの火を灯して村のなかを回る。翌朝、もう一度村回りをしてから、破損したアンドンや供え物の残りが海上に流される。虫送りの要素も認められるという。

#### ー八幡古表神社の乾衣祭（おいろかし）（福岡県吉富町・8月6、7日）

「細男（くわしお）の舞」で舞をする傀儡子が身につける衣装を虫干しする行事。約1000着の衣装が社殿内で何段にも組まれた物干し棹に掛けられ虫干しされる

## (2) 各地の七夕の文献調査やレファレンス

コロナ禍が長期化した場合は、こちらがメインになってくると思われる。昨年度も書いたことではあるが、フィールド調査は期間が限られてくるので、文献やインターネットを活用した事例の調査を行って行く。

- 1) 各地の図書館・博物館・資料館・大学など研究機関に足を運んで、そこが所有する文献や資料や記録を調査する。
- 2) 同上に電話やメールなどで事例についてのレファレンスを行う。
- 3) インターネットを活用し、同上の文献や資料などの検索と収集を行う。

## (3) 北海道における「ろうそくもらい」の調査継続

本年度は、道内、本州共に現地に行くことができなかった。こちらも、文献等も活用しつつ、継続をしていきたい。可能ならば、現地での調査。本州で関連していると思われる行事の調査に赴きたい。こちらも候補を絞っている。

### ①北海道での「ろうそくもらい」のフィールド調査

函館か道内の他の都市

### ②日本海岸での類似する七夕

ー村松浜の七夕まつり（新潟県中条町村松浜・8月7日）

ー秋田県の「七夕様のおくねりだ ローソク一本ちょうだい」の調査

「北海道の年中行事」小田嶋雅子著に記載があるが場所が不明である。

### ③文献調査・リファレンス

ー道内の図書館・博物館・研究機関など

ー北海道新聞のデータベース活用（有料）

## (4) データベースの構築の第2フェーズ

キーワードや分類などについては、改良の余地があるので、本年度掲載の事例をさらに分析する。そのうえで、次年度新たに訪問した場所、書籍やインターネット上の事例なども拾って、情報量も増やしていく。

以上